

『愛を知り、愛に応える』 詩篇23篇1～6節 2018.9.30 聖日礼拝説教より

『あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。』 I ペテロ 2 章 25 節

羊の習性は、臆病で、迷いやすく、頑固！私たちは神の小羊(エゼキエル 34:31)であり、羊飼いなしでは生きられない。ダビデは、羊飼いである神とその愛を知り、明確な信仰を告白した！

●「**主は私の羊飼(1節)**」…「飼う」は、「必要を与え、育む」の意。ダビデは人生を通して、日々糧を与え、渴きを癒すお方を知り、賛美した。『神は、ご自分の民を、羊の群れのように連れ出し…彼らを安らかに導かれた(詩篇 78:52-53)』と。イエスは、御自分がその羊飼いだと言われた(ヨハネ 10:14-15)。★自分の信仰の歩みを素直に振り返るとき、主が羊飼いだと確信できる！

●『**私は乏しいことがない**』…神の民は、荒野の旅路の途中は、徹底して乏しく、渴き、神に呟いたが、その40年を振り返ってモーセが証言した。その見守り、臨在、全ての必要を満たすお方を(申命記 2:7)！ダビデも告白した『…彼を恐れる者には乏しいことはない…主を尋ね求める者は、良いものに何一つ欠けることはない(詩篇 34:1-10)』と。パウロも言う『私は、どんな境遇にあっても満ち足りた(ピリピ 4:11)』と。★この神は、必要を常に必ず与えられる。

●『**主は私を緑の牧場に伏させ…(2節)**』…『伏させ』は「ゆったり横になって休む」の意。羊は安心と安全があつてこそ食べて飲む！人は、忙しさに追われ、心身ともに休まらない生活では必ず燃え尽きる。ダビデは多くの敵に悩み、逃げ回る日々の中で、神に訴える中で守りを確信し、神を信頼して安息できた(詩篇 3:1-5/4:1,8)。★日々重荷を負い、闘うあなたに、『わたしのところに来なさい！わたしが、あなたがたを休ませてあげます(マタイ 11:28)』と語りかけるイエスがおられる！

●『**いこいの水のほとりに伴われ**』…「いこい」は、「リフレッシュ」と共に「静けさ」の意。羊飼いが導くのは、魂が心地良く静まる場所！忙しい毎日で、主との親しい交わりを深めるのは難しい！一日のどこかで、静まり、耳を澄まし、主の御声を聴こうと待ち望む姿勢、その時間、その静かな場所が必要！ダビデは、それを願い求めて、それを得た(詩篇 27:4-5)。

★あなたの神は「羊飼」！荒野の旅路を共に歩み、必要を与え、重荷を降ろして寛がせ、あなたと静かに親しく交わりたい方！今週この方をイメージしつつ歩みたい。『主よ、あなたは、いつも私を緑の牧場に伏させ、日々いこいの水のほとりに伴われます』と！